石巻専修大学
●「石巻専修大学」ホームページ● http://www.isenshu-u.ac.jp
代表電話番号 0225(22)7711
広報専用FAX 0225(22)7809

就職活動本番へ第一歩

「模擬面接講座」を開催

▶ 本番さながらの実践トレーニングに学生たちも真剣な表情

就職活動本番を迎える3年次生を対象にした「模擬面接講座」が昨年12月と今年1月の2回、本学で開催された。世界的な金融危機の影響で、来年3月卒業予定の学生の就職戦線も厳しさを増すことが予想される中、これから本格化する就職活動を有利に進めていこうとのねらいで企画された。講師には就職・採用コンサルタントの佐藤孝夫氏（㈲人夢工房代表）を迎えた。

12月20日の講座は「自己PR編」と銘打って開催。54人が参加した。1月24日には「志望動機編」として開催し、33人が参加。本番さながらの面接訓練が展開された。

「自己PR編」では、就職ガイダンスの面接講座で学んだことを踏まえ、履歴書に記載した自己PR欄を主体に面接を行った。

一方、「志望動機編」では、面接の総合実践講座として位置づけ、セールスポイントを売り込む方法も加味しながら、自分の弱点や現時点の課題などの把握を行った。

面接は個人面接や集団面接などの形式で進められ、学生たちは講師からの厳しい質問を受けながら自己アピールに悪戦苦闘していた。また、面接時における姿勢や面接官へ向ける目線、質疑応答での所作などについて、実践的かつ具体的な指導やアドバイスを受け、密度の濃い実習を通して、自己研鑽に努めた。

参加者からは「就職」という共通の目標に向けて出会った仲間は大きな財産。学部・学科を超え、互いに刺激し合い、コミュニケーションを図られたことは貴重な収穫です」などの感想が寄せられた。就職活動本番に向け大きな一歩を踏み出した様子だった。

日本水産学会東北支部大会
大学院・及川さんが学会支部長賞

昨年11月7、8の両日、山形県鶴岡市で開かれた2008年度日本水産学会東北支部大会（石田行正支部長）で、大学院理工学研究科生命科学専攻1年の及川泰正さんが「親潮春季ブルーム期におけるナノプランクトンの現存量」の研究で同学会支部長賞を受賞した。

春に「親潮域」と呼ばれる海域では珪藻類プランクトンが大増殖し、他の生物の活動も活発になることが知られている。

しかしそれよりも小さな20マイクロメーターという大きさのナノプランクトンがこの時期、どのくらいの量が存在し、どのように分布しているかを調べたのが及川さんの研究だ。

理工学部4年次の一昨年の4月から5月にかけて、北海道・釧路の沖合へ研究航海に出た。他大学の研究者とも話す機会が多くあり、研究の楽しさに目覚め、大学院への進学を決意したという、この時の研究成果が今回の受賞につながった。

「なかなか日の目を見ることがない基礎的な研究のため、評価を受けにくいのですが、受賞は正直言ってうれしいです。佐々木洋教授と太田尚志准教授からは親切なご指導と重要なアドバイスをいただき、感謝にたえません」と、謙虚に受賞の喜びを話す及川さん。

「現場海域でナノプランクトンが捕食者によってどれくらい食べられているかという研究も進めていきたい。受賞した先行研究とこの研究の2つを組み合わせて、高い成果が生まれれば」と、今後の研究にも意欲的に取り組みたいと話している。

授賞式は6日に行われる。

▲ 受賞した及川さん

圏域高校と懇談会

▶ 今後の高大連携について話し合った

石巻地域高等教育事業団が主催する「石巻専修大学と圏域高等学校との懇談会」が1月23日、本学で開かれ、今後の高大連携の進め方について話し合った。高校側からは石巻地区の高校12校の校長らが出席し、本学からは坂田隆学長ほか13人が出席した。

情報交換の中で、坂田学長より「本学が石巻商業高校、東松島高校と単位認定型の連携を始め2年目となる。石巻駅前に共用のサテライト教室があれば、12校との連携をスムーズに進めることができる」との提案が出され、多くの校長からも賛意が相次いだ。

この提案に、同事業団事務局長を務める石巻市の今野忠市企画部長は「事業団か市のどちらでやるか検討している。早い機会に設置したい」などと前向きな姿勢を見せた。

本学自動車工学センターを見学
産業技術交流座談会

▲ 熱心に見学する企業関係者

宮城県内の企業3社の関係者が1月15日、本学を訪れ、自動車工学センターなどを見学した。これは「KCみやぎ」の産業技術交流座談会の一環として行われたもの。「KCみやぎ」は地域企業の基盤技術の高度化と地域産業の競争力強化などを目的に、05年度から活動している。

当日は坂田隆学長のあいさつに続き、理工学部の山本憲一教授が自動車工学センターの概要と設備について講演。その後、各社の製造部門担当者は同センターや工作・試験センターなどを見学。教材用のエンジンや車検用施設、実習用の車や機材などを約1時間、丹念に見て回った。

今回の見学に参加した企業は、堀尾製作所、日の丸合成樹脂工業、本田精機の3社。いずれも本学の特色ある自動車工学センターを見学したいという要望が高く、実現した。

「総合科目Ⅱ」でピアノコンサート

▲ クラシック音楽の魅力を紹介した清塚氏

共通科目「総合科目Ⅱ」で、1月13日にピアニストの清塚信也氏を講師に、統一テーマ「学問の偉人」にちなみ「ピアノの達人」と題した講演と演奏会が行われた。会場は受講生に加え、若手ピアニストで注目度ナンバーワンと言われる清塚氏の講演と演奏を聴こうと集まった学生らでほぼ満杯。約250人の聴講生は熱心に耳を傾けた。

清塚氏は数々のコンクールで優勝し、リサイタルやコンサートを軸に映画音楽やテレビドラマなどの分野でも活動。06年にはテレビドラマ「のだめカンタービレ」でサウンドトラックの演奏と、玉木宏さんが演じた「千秋真一」のピアノ演奏シーンの吹き替えを担当し、さらに脚光を浴びた。

講義ではショパンやリスト、ベートーベンの名曲の演奏を交えながら、留学時代の体験談をはじめ、作曲家の個性やクラシック音楽の歴史を紹介。クラシック音楽の楽しみ方やコンサートの魅力を伝えるとともに、テレビ収録時のエピソードなども披露した。

「文化、伝統を学び、自分の中に取り入れることは人間性を深めるきっかけになる」「世界は広い。たくさん冒険して、経験を積んでほしい。自分の目で見て自分の考えを持つことが重要だ」とメッセージを送り、最後に自作曲「Fortuna～フォルトゥーナ」を熱演。会場は割れるような拍手に包まれた。

NHK・田波氏招き特別講義

理工学部では学外から講師を招いて、現代の科学技術や理工学分野における話題を取り上げ、その事象における基本的な考え方やその発展・展開状況について話してもらう「特別科目Ⅳ（特別講義）」を開講している。

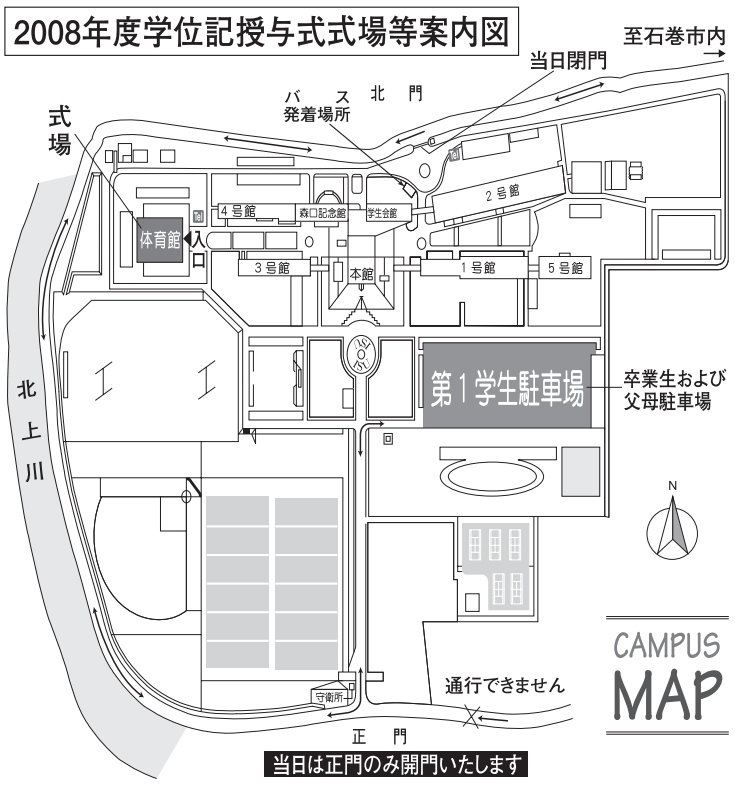
1月23日の講義では、田波宏視・NHK仙台放送局放送部制作担当部長が同局開局80周年記念ドラマ「お米のなみだ」の制作背景とドラマへの思いについて話した。

最初に田波氏はクイズ方式で日本の食料事情、農業事情について説明。その後「お米のなみだ」を上映しながら、制作に至るまでの背景などについて話した。このドラマは宮城県で撮影が行われ、昨年9月に東北ブロックで、同10月に全国放送された。いま農政から見離されようとしている中山間地域のコメ作りにスポットを当てたドラマだ。田波氏は耕作放棄地の拡大や日本の低い食料自給率に警鐘を鳴らし、「若い人に農業の厳しい現状を知ってもらい、また興味を持ってもらう必要がある」と述べた。

理工学部3年次生50人の受講生は、熱心に耳を傾けており、日本の農業の実態や食料事情について、深い関心を寄せていた。

▲ 食料事情などを講義する田波氏

2008年度学位記授与式式場等案内図



2008年度 学位記授与式のご案内

08年度（平20）の学位記授与式（卒業式）は本学体育館を会場に行われます（案内図参照）。

●学位記授与式（学部・大学院）

日時＝3月20日（金）
9時30分開場
10時30分開式

●卒業を祝う会

同窓会・育友会共催
日時＝同日14時
場所＝石巻グランドホテル
（石巻市千石町2－10）

※式終了後、石巻グランドホテルで「卒業を祝う会」を開催します。
各種飲物も用意していますので、バスをご利用ください。